

上流階級

富久丸百貨店外商部

高殿円

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在校生のみなさんもお進級おめでとうございます。1ヶ月ほどお休みが続いていたので、みなさんに会えるのが待ち遠しかったです。久しぶりの登校、授業、部活などなど...少しずつ学校生活のリズムに体を慣らしていきましょう

今月紹介するのは「上流階級 富久丸百貨店外商部」。2015年1月にドラマも放送されたので、見たことがある人もいるかもしれませんね。富久丸百貨店芦屋川店で、外商員として働く鮫島静緒。製菓学校卒業後、地元のパティスリーでの営業を担当し、その後富久丸百貨店に入社。洋菓子の企画販売からパイヤーへ転身し、赤字経営の縮小店舗も黒字へ導き、気づけばクリスマスプランナーともてはやされ、外商部への異動...という波乱万丈な人生。外商部のお仕事は、セレブの家や会社などに、高級腕時計や指輪を持参してお買い物をしていただくこと。私たちが百貨店でお買い物をするときは直接お店に行くので、正反対です。新人でもノルマがあって、なんとその額、月1500万円...！お客様の本心を想像したり、珍しい品物を探して奔走したり、お店とはまた違った世界が広がっています。一見華やかな世界ですが、宝石を運ぶのは重いし、お客様たちは無理難題に思えることを言うてくるし、なかなか厳しいお仕事です。そんな中でも、「百貨店」という名前である以上、どんなものでも売っていないとは言えない、百貨店で揃わないものはない、と言い切る姿に、仕事への誇りが感じられ、かっこいい！と思いました。他にもいくつか素敵な名言があるのですが、一番印象的だったのは彼女の上司である葉鳥さんの言葉。「教養とは、振る舞いです。手間暇をかけた身なりと、正しい日本語と、落ち着いた着き。経験を積み重ねないと手に入らないもの。値札のつかない人間としての価値、これ以上のサービスはこの世には存在しない。」外商のお仕事に限らず、毎日の生活のなかでも大切にしたい考え方だと思いました。お話に出てくる品物は高価なものばかりですが、「売る」仕事に不可欠なものが何か、読んでいるうちに気づかされます。また、仕事に一生懸命になれることのすばらしさも。読み終わった後はなんだかやる気が満ちてきますよ。素敵な品物がたくさんあって、楽しい気分になる百貨店。わたしも久しぶりに行ってみようかなと思っています。

高殿円

兵庫県神戸市生まれ。2000年に『マダム・ミリア 三つの星』で第4回角川学園小説大賞奨励賞を受賞しデビュー。『トッカン 特別国税徴収官』『上流階級』はドラマ化され話題に。ほか『政略結婚』『グランドシャッター』など著書多数。